

# アミオダロン 塩酸塩静注 150mg「TE」投与方法

心室細動、血行動態不安定な心室頻拍で難治性かつ緊急を要する場合 ●沈殿を生じるので、生理食塩液と配合しないでください。  
●1日総投与量:1250mgを超えないこと。 ●投与濃度:2.5mg/mLを超えないこと。

●容量型の持続注入ポンプを用いて点滴投与してください。 ●可能な限り中心静脈から投与してください。

48時間まで

1日目

初期  
急速投与



1アンブル

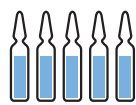
アミオダロン  
塩酸塩125mg  
||  
2.5mL  
1アンブル(3mL)から  
2.5mL注射筒で抜き取る。



5%ブドウ糖液100mL

600mL/時  
(10mL/分)  
10分間

負荷投与



5アンブル

アミオダロン  
塩酸塩750mg  
||  
15mL



5%ブドウ糖液500mL

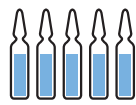
33mL/時  
6時間

維持投与 1)  
投与速度を変更して、  
残液を投与

17mL/時  
18時間

2日目

維持投与 2)



5アンブル

アミオダロン  
塩酸塩750mg  
||  
15mL

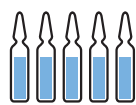


5%ブドウ糖液500mL

17mL/時(アミオダロン塩酸塩として600mg)  
24時間

3日以降

継続投与  
(48時間投与終了後  
必要な場合)



5アンブル

アミオダロン  
塩酸塩750mg  
||  
15mL



5%ブドウ糖液500mL

17mL/時(アミオダロン塩酸塩として600mg/24時間)

追加投与

血行動態が不安定な心室頻拍あるいは心室細動が再発し、本剤投与が必要な場合



1アンブル

アミオダロン  
塩酸塩125mg  
||  
2.5mL

1アンブル(3mL)から  
2.5mL注射筒で抜き  
取る。



5%ブドウ糖液  
100mL

600mL/時  
(10mL/分)  
10分間

## 【効能又は効果】

○生命に危険のある下記の不整脈で難治性かつ緊急を要する場合  
心室細動、血行動態不安定な心室頻拍

○電気的除細動抵抗性の心室細動あるいは無脈性心室頻拍による心停止

## 【用法及び用量に関連する注意】

〈心室細動、血行動態不安定な心室頻拍で難治性かつ緊急を要する場合〉

7.1 本剤の点滴静注による投与には容量型の持続注入ポンプを用いること。本剤溶液の表面特性の変化により、液滴サイズが縮小することがあり、滴下時の注入セットを用いた場合、過少投与となるおそれがある。また、注射部位反応を避けるため、可能な限り本剤は中心静脈より投与すること。

7.2 初期急速投与及び追加投与时は、1アンブル(3mL)から本剤2.5mLを注射筒で抜き取り調製すること。

7.3 継続投与に関し、国内においては最長7日間までの投与経験しかなく、継続投与の期間については十分注意すること。

7.4 追加投与に関し、国内においては3回までの投与経験しかなく、追加投与については十分注意すること。

## 【適用上の注意】

### 14.1 薬剤調製時の注意

沈殿を生じるので、生理食塩液と配合しないこと。

### 14.2 薬剤投与時の注意

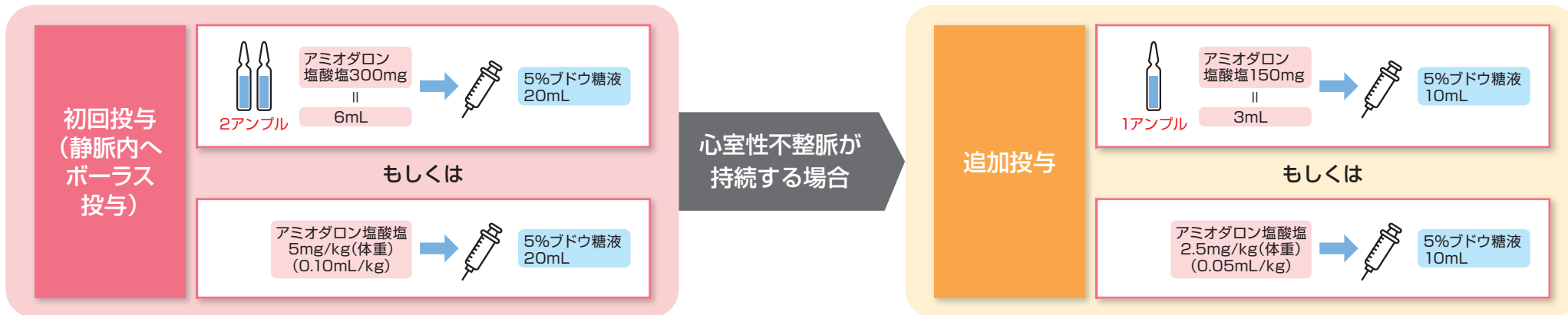
14.2.1 ポリ塩化ビニル製の輸液セット等の使用を避けること。アミオダロン塩酸塩はポリ塩化ビニル製の輸液セット等に吸着する。また、可塑剤としてDEHP[di-(2-ethylhexyl)phthalate]を含むポリ塩化ビニル製の輸液セット等を使用した場合DEHPが溶出する。

14.2.2 同一のラインで他剤を注入しないこと。

14.2.3 同一のシリンジで他剤を混合しないこと。

# アミオダロン 塩酸塩静注 150mg「TE」 投与方法

電気的除細動抵抗性の心室細動あるいは無脈性心室頻拍による心停止 ●沈殿を生じるので、生理食塩液と配合しないでください。



## 警告

### 1.1 施設の限定

本剤の使用は致死的不整脈治療の十分な経験のある医師に限り、諸検査の実施が可能で、CCU、ICUあるいはそれに準ずる体制の整った、緊急時にも十分に対応できる施設でのみ使用すること。

### 1.2 患者の限定

致死的不整脈患者で、難治性かつ緊急を要する場合にのみ使用すること。

### 1.3 本剤では新たな不整脈や不整脈の増悪等を含む重篤な心障害が報告されており、ときに致死的な場合もあるので、CCU、ICU等で心電図及び血圧の連続監視下で使用すること。なお、血圧については可能な限り動脈内圧を連続監視することが望ましい。

### 1.4 本剤投与後24時間以内に重篤な肝機能障害が生じ、肝不全や死亡に至る場合もある(海外症例の副作用報告)ので、患者の状態を慎重に観察するなど、十分に注意すること。[8.3、11.1.2参照]

## 禁忌(次の患者には投与しないこと)

2.1 洞性徐脈、洞房ブロック、高度な房室ブロック、二束ブロック又は三束ブロック)又は洞不全症候群があり、ペースメーカーを使用していない患者[洞停止のリスクがある。]

2.2 循環虚脱又は重篤な低血圧のある患者(血行動態不安定な心室細動又は心室頻拍発作発現中を除く)

2.3 本剤の成分又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

2.4 リトナビル、ニルマトレルビル・リトナビル、ネルフィナビルメシル酸塩、クラスIa及びクラスIII(ソタロール、ニフェカラン)の抗不整脈薬、ペプリジル塩酸塩水和物、モキシフロキサシン塩酸塩、ラスクフロキサシン塩酸塩(注射剤)、エリスロマイシン(注射剤)、ペンタミジンイセチオン酸塩、トレミフェンクエン酸塩、フィンゴリモド塩酸塩、シボニモド フマル酸又はエリグルスタット酒石酸塩を投与中の患者[10.1参照]

2.5 重篤な呼吸不全のある患者  
ただし、心停止時はこの限りでない。

## 【適用上の注意】

### 14.1 薬剤調製時の注意

沈殿を生じるので、生理食塩液と配合しないこと。

### 14.2 薬剤投与時の注意

14.2.1 ポリ塩化ビニル製の輸液セット等の使用を避けること。アミオダロン塩酸塩はポリ塩化ビニル製の輸液セット等に吸着する。また、可塑剤としてDEHP[di-(2-ethylhexyl) phthalate]を含むポリ塩化ビニル製の輸液セット等を使用した場合DEHPが溶出する。

14.2.2 同一のラインで他剤を注入しないこと。

14.2.3 同一のシリンジで他剤を混合しないこと。

## 不整脈治療剤

創薬、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

アミオダロン塩酸塩注射液



# アミオダロン 塩酸塩静注 150mg「TE」

Amiodarone Hydrochloride Injection 150mg「TE」

薬価基準収載

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等の詳細は最新の電子添文をご確認ください。



専用アプリ「添文ナビ」でGS1バーコードを読み取ることで、最新の電子添文等を閲覧できます。

アミオダロン塩酸塩静注「TE」



(01)14987142352019

# トアエイ

【文献請求先・お問い合わせ先】トアエイ株式会社 信頼性保証部 / 電話 0120-387-999

2023年1月改訂(第2版)電子添文に基づき作成  
2023年4月改訂

AMZ-I03002-202304-A